

補助事業名	水道水源開発等施設整備事業	補助区分	水道水源開発等施設整備費 (水道水源開発施設整備費)
事業の名称	湯西川ダム建設事業(負担金)	工 期	昭和57年度～平成23年度
総事業費	184,000,000千円	経過年数	23年(平成16年度末)
負担金	9,200,000千円	進捗率	36.3%(平成16年度末)
事業の概要		事業の効果	
水道用水 25,900 m ³ /日を湯西川ダムより確保する。		水需要予測を踏まえて、水源構成を見直した結果、将来の水需要に対応した安定供給を図る上で欠かすことが出来ない水源である。	
再評価事項	再評価事項の説明		
1. 採択後の事業をめぐり社会経済情勢等の変化	平成14年度に「宇都宮市第4次総合計画基本計画」の改定が行われ、将来人口が大幅に下方修正された。このようなことから、その将来人口や経済フレームと整合を図るため、同年度に水需要予測の見直しを行ったところ、計画給水人口が490,500人、1日最大給水量が226,000m ³ となった。この予測結果、更には地下水源能力の調査結果などを踏まえ、平成15年度には水源構成の見直しを行い、湯西川ダム水源については取水量を当初計画の0.61 m ³ /s(52,700 m ³ /日)から0.3 m ³ /s(25,900 m ³ /日)に減量した。		
2. 採択後の事業の進捗状況等	平成10年12月に建設省と地元において用地補償基準が妥結され、現在用地取得を進めると共に付替県道工事などを実施している。平成16年9月末現在の水没地の用地取得の進捗状況は約76%となっている。		
3. コスト縮減及び代替案立案等の可能性	平成14年度に実施した水需要予測の結果や、地下水源能力調査結果を踏まえて、将来の給水の安定性、浄水コスト等の経済性などを総合的に勘案し、平成15年度に水源構成の見直しを行ったところ、湯西川ダムからの取水量を0.61 m ³ /sから0.3 m ³ /sとすることが、本市にとって最も有利であり、現時点においてこれに代わって検討すべき代替案は見当たらない。		
4. 事業の投資効果分析	新規ダムへの参画を想定し、本事業に係る負担金及びダムの維持管理費を費用とし、ダム開発がない場合の断滅水被害額を便益として算定した結果、費用便益比は1.93となり事業実施は妥当であると判断できる。		
事業体再評価結果		継 続	
評 価 理 由			
湯西川ダムは、上述のとおり本市の水需要に対応するために必要な水源であることから、事業を継続すべきである。			
第三者再評価結果		継 続	
評 価 理 由			
1. 水需給の動向については、社会経済状況の変化に対応して、水需要予測を見直しており適正なものと判断できる。			
2. 水源構成の見直しについては、地下水源の取水能力の調査結果や各水源の現状と課題を踏まえて、コスト比較などを行い湯西川ダムからの取水量を当初計画の約半量に減量するなど、水源構成を見直したことは妥当である。なお、地下水源の取水能力の低下や水質の悪化について、今後十分考慮すべきである。			
3. 湯西川ダム建設事業においては、コスト縮減について様々な取組みが行われており評価できる。今後も環境への配慮を十分に行った上で、構造物の品質を低下させることなく、更なるコスト縮減に向けた一層の努力・工夫を進めることが求められる。			
4. 事業の投資効果分析の結果、費用便益比は1.93となっており、事業の実施は妥当である。			
5. 湯西川ダムからの取水量を0.61 m ³ /sから0.3 m ³ /sに減量することが、宇都宮市にとって最も有利であり、現時点で代替案がないことから適正なものと判断できる。			
最終方針		決 定 理 由	
継 続		湯西川ダムは、本市にとって必要な水源であることから事業を継続する。	